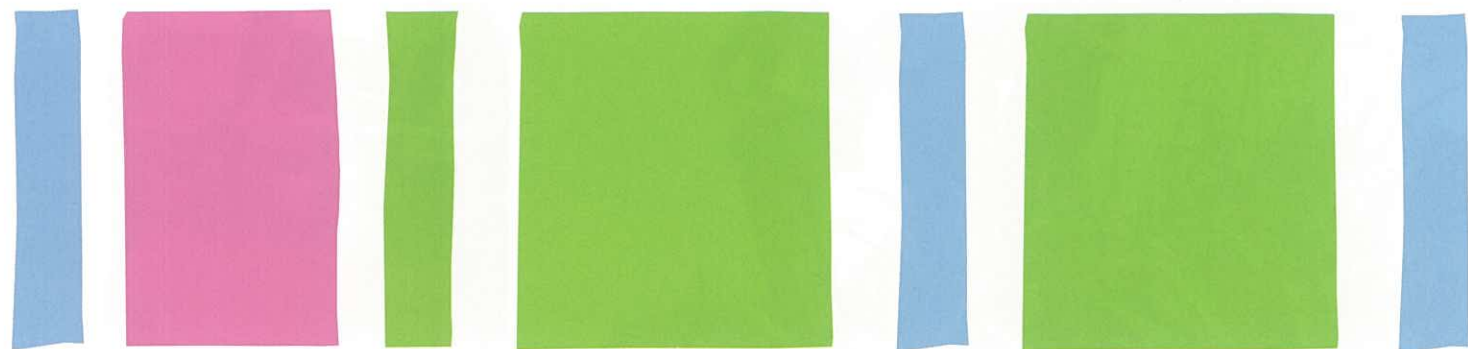


第1章



推進地区の実践

スタートカリキュラムを軸とした 保・幼・小連携

教育をつなぐ



スタートカリキュラム:はるとなかよくならう



保・幼・小合同研修会:授業をめぐる話し合い

子どもも安心、保護者も安心、送り出す園も、 迎える学校も安心のスタートカリキュラム

高須小学校区では、入学した子どもたちが小学校生活にスムーズに入っていけるように、生活科を中心に、他教科や行事と関連させて、活動や学習の指導計画を立てました。

小学校生活の始まり、特に朝の時間を大切に、1単位時間(45分)を3つのコマ(15分×3)に分けて、カリキュラムを構成しました。その中で、NHK放送番組

「できた できた できた」を視聴して学校生活のルールを楽しみながら理解したり、歌やゲームで心をほぐしたり、絵本の読み聞かせで学びへの意欲を高めたりするなどの工夫をし、それらを生活科を中心とした活動の流れに組み込みました。

こうしたカリキュラムの見直しを行ったことで、教員の意識も高まり、入学当初は緊張していた子どもたちも、喜んで登校するようになりました。保護者も安心して1年生のスタートを迎えることができたようです。



高須小学校区スタートカリキュラムのポイント



- 1 1時間を3コマに分けて、子どもたちが集中しやすいように合科的な指導をしていること。
- 2 NHK放送番組「できた できた できた」を視聴し、イメージをふくらませながら取り組んだこと。
- 3 自然環境を活かし、研究の柱である理科の学びにつなげるスタートカリキュラムであること。

スタートカリキュラムⅠ-1・Ⅰ-2(詳細はスタートカリキュラム事例集P65～67に掲載しています。)

はるとなかよくなろうⅠ・Ⅱ(3時間)

【5月9日公開授業】

～くさばなあそびをしよう～

【目標】

- ・春見つけをしたり、草花遊びを楽しんだりすることを通して、自然や友達と仲良くなることができる。**生活**

- 1 学校にある草花を見つけ、草花を使って遊ぶ。
・学校にある草花を使って遊びを考え、みんなで楽しむ。

オオバコで
草ずもうをし
よう。

レンゲやタンポポ
の花がたくさん
さいてるね。

- 2 友達に遊びを紹介する。
・草花遊びで発見したことやおもしろかった遊びを友達に紹介する。

シロツメクサで
指輪を作ったよ。

吹くと、ピーと音が
する草があったよ。



～はるのTシャツをかこう～ ～みんなにしょうかいしよう～

【目標】

- ・クレパスを使って、春のものを絵に表すことを楽しむ。**図画工作**
- ・絵に表したことを、友達や先生に伝えたりすることができる。**国語**

- 1 絵本の読み聞かせをする。
- 2 春見つけや、草花遊びの様子を思い出す。
- 3 春のTシャツを描く。
・模様を考えたり、色を選んだりして描く。

黄色い花を
かきたいな。

見つけた虫を
いっぱいかきたいな。

- 1 絵を見せながら作品の話をする。
- 2 友達の作品を見て、感想を話す。

黄色い花はどこで
みつけたんですか。

楽しかったね。

※スタートカリキュラムとは…遊びを中心とした保育所・幼稚園等の生活から、教科学習や時間割による小学校の学習・生活に滑らかに接続できるよう工夫された指導計画のことです。小1の4月・5月に実施します。



はるのTシャツをかこう

スタートカリキュラム成功の鍵

コーディネーター

高須小に入学する子どもたちがいる園との情報共有を進めているのは、特別支援教育学校コーディネーターです。

1年団とともにコーディネーターが保・幼・小連携の担当として位置付けられていることで、園とのつながりがスムーズになり、スタートカリキュラムについても園から意見をもらって改善することができています。

学年団での取組

公開授業では、2クラスは「くさばなあそびをしよう」、残りの2クラスは「はるのTシャツをかこう」の時間というように、分担して公開しました。そのことで、前時のねらいと活動、それに続く本時の取組の効果が学年団として検証できるからです。

スタートカリキュラムを実施する際には、学年全体で取り組むことで保護者も安心します。

内容をリニューアル

高須小1年団では、これまで実践してきた入学当初の「学習と生活の約束についての指導」を見直し、保育所・幼稚園等からの接続を意識した内容にリニューアルしました。

子どもたちの接続期における発達を考慮し、園での取組との関連を重視した内容にしたことで、子どもたちの安心につながりました。

スタート
カリキュラムの
成果は
これだ!!

保育所・幼稚園等の先生方と、スタートカリキュラムをテーマにして、公開授業や合同研修会、実践発表などの交流をすることで、子どもたちが園で経験してきたことが分かり、小学校でもその継続を踏まえた指導の工夫をすることができました。この期間に学校生活への安心感をもたせることで、その後の学習意欲にもつながったと思います。

・芸術学園幼稚園・高須小学校

実践発表：各園・高須小の取組【8月6日】



園では、小学校への接続に向けて、基本的な生活習慣を定着させることや、異年齢の子どもとの交流を通して成長する機会をつくる、自分の思いを伝える場をつくるなどの取組がされていました。

発表後の話し合いでは、園の先生方から、「卒園生が小学校へ入ってからの情報を共有することで、自分たちの取組を見直していくことができる」といった意見が出されました。園と小学校との情報共有をさらに進めていきたいものです。

音楽会の練習を通した園児と児童の交流【11月14日】



1年生
すごいね。

園のみんなが
見てくれる！

高須小では、1年生の音楽会の練習に園児たちを招待して、園児と児童(小1)の交流の場としました。1年生は、園児が見に来てくれたので、いつもより少し緊張しながらも張り切って演奏をしました。それぞれの楽器を担当する児童が、園児たちに楽器の名前や音を紹介したり、園児からは「1年生の音楽がとてもきれいでした。」といった感想を出したりして、音楽を通した交流ができました。

保・幼・小連携 スケジュール



- 4月
 - ・公開授業
 - ・園長・校長会
- 5月
 - ・スタートカリキュラム公開授業
 - ・運動会を通しての交流
- 6月
 - ・人権参観日
 - ・園長・校長会
- 7月
 - ・保幼小合同研修会打ち合わせ
 - ・スタートカリキュラムについて協議
- 8月
 - ・保幼小合同研修会
 - ・各園と小学校の実践発表
- 9月
 - ・参観週間
 - ・園長・校長会
- 10月
 - ・公開保育
 - ・生活科の活動を通した交流
- 11月
 - ・音楽会の練習を通した交流
 - ・参観日
- 12月
 - ・園長・校長会
 - ・次年度スタートカリキュラムについて
- 1月
 - ・園児の小学校探検
- 2月
 - ・一日入学
 - ・園長・校長会
- 3月
 - ・年間の取組の振り返り
 - ・次年度への引継ぎ

園からの学びと育ちをつなぐスタートカリキュラム

教育をつなぐ



スタートカリキュラム：どうぶつランドへようこそ



2ねんせいとがっこうたんけん①

発達や学びの個人差に対応する スタートカリキュラム

春野西小学校区の特徴は、多くの異なる園から子どもたちが入学してくることです。そのため、入学当初は子どもたちの人間関係づくりに力を入れてきました。

スタートカリキュラムでは、具体物を取り入れたり、数字カードや動物カードを使って動きのある展開にしたりすることで、幼児期と児童期の教育の接続をめざしており、発達や学びの個人差に対応したきめ細かい指導が可能になると考えます。そこで、本年度は年度当初からスタートカリキュラムに取り組んできました。

これまでの連携の土台を生かし、保・幼・小の教職員の定期的な情報交換を通して、子どもの発達や学びの状況に関する情報を共有したり、実施したスタートカリキュラムについての感想や助言をもらったりしながら質の向上を図りました。また、園においても、例えば、スタートカリキュラムで行うフルーツバスケットのような協同的な遊びを年長児の活動として取り入れることを話し合うなど、接続のための協議が行われるようになりました。

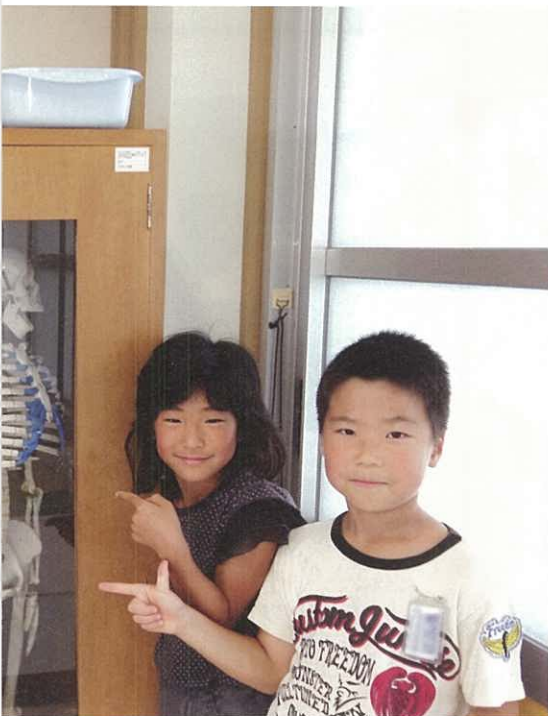


春野西小学校区スタートカリキュラムのポイント



- 1 スタートカリキュラムから教科、特に算数の学習につなげることを意識して実施していること。
- 2 入学前からの園からの情報をもとに、子どもたちの実態に即したスタートカリキュラムにするよう、内容を検討していること。
- 3 子どもたちの発達の特性を考えて、授業の中に「動」(体を動かしながら学ぶ場面)と「静」(じっくりと考える場面)を意図的に組み合わせて位置付けていること。

※スタートカリキュラムとは…子どもたちが幼児期に体験してきた遊び的要素と小学校生活の中心を成す教科学習の要素の両方を組み合わせた、合科的・関連的な学習プログラムです。



2ねんせいとがっこうたんけん②

スタートカリキュラム成功の鍵

保・幼・小・中連携

春野西・春野東小学校区では、保育所・幼稚園等と小学校との連携に加え、春野中学校も公開授業や公開保育に参加したり、園長・校長会に参加したりするなどして、保・幼・小・中12年間で子どもの学びと育ちをつなぐ取組を進めています。

そうした連携の土台があることが、スタートカリキュラムの実践を支えています。

学校全体の取組

スタートカリキュラムを実践する際には、1年担任だけでなく、管理職や教務主任、2年団が支援に入り、学校全体で取り組むようにしています。

2年生は、「がっこうはじめまして1～2ねんせいとがっこうたんけん～」において、学校の施設や自然の様子、学校生活を支えてくれている人たちなどを紹介してくれました。1年生の学習のいいモデルとなっています。

教科につなげる

スタートカリキュラムを4月から6月にかけて実施しながら、少しずつ国語や算数などの教科の学習の割合を増やしていきました。

こうして段階的に移行していくことで、子どもたちは無理なく、また、「小学校の勉強ができる！うれしい！」という意欲をもって教科の学習に取り組むことができるようになりました。算数の学習においても集中力が高くなっています。

スタート
カリキュラムの
成果は
これだ!!

子どもたちは、スタートカリキュラムのことを「勉強」と思っていないようです。それだけ自然に学んでいるということだと思います。異なる園から入学してきた子どもたちも、スタートカリキュラムを通してかわるうちに、すっかり仲良くなり、安心して教科の学習に入ることができています。

スタートカリキュラム J-1・J-2(詳細はスタートカリキュラム事例集P68, P69に掲載しています。)

どうぶつらんどへようこそⅠ・Ⅱ(2時間)

～どうぶつらんどであそぼう～

【目標】

- 動物の出る歌を歌うことを楽しんだり、好きな動物を友達に聞いたり知らせたりして話すことになれる。**国語 音楽**

- 動物の出る歌を歌う。
 - 絵の中に出てくる動物を探し、動物の出る歌を考えて発表する。みんなで一緒に歌う。

あの歌知ってる。
歌えるよ。

動物の動きは
こうかな？

- 好きな動物を友達に聞いたり知らせたりする。
 - できるだけたくさんの友達と話することができるようにする。学級全体の前でも話す。

～さんにも
聞いてみよう。

ぼくと一緒だ。
パンダだね。



～どうぶつらんどで もっとなかよくなろう～

【目標】

- 動物バスケットをして友達と楽しく活動し、仲良しづくりをしながら数に親しむことができる。

算数 学級活動

- 前時の学習を思い出す。
- 動物バスケットをする。

動物カードを首に
かけてもらったよ。

同じ動物の人が
何人もいるね。

次は、どの動物が
呼ばれるかな。

- 数の仲良し作りをする。
 - リングの色別に仲間作り
(持っているリングが同じ色同士で集まる)
 - 色別にリングの数を数えて数の大小を考える
 - 動物の仲間作り
 - 動物の数と数字を確認する
 - カードの裏の数字別に仲間作り
 - 数の大きい順や小さい順に並んだりする
 - 手拍子の数になるように仲間作り
- 学習を振り返る。



スタートカリキュラムについて協議
園からの意見【5月24日】

幼児期からの学びと育ちを大切にしたいスタートカリキュラムを見せてもらって、とても参考になった。

園で大切にできたことが、こういう風に学校につながっていくのだということが分かった。子どもたちは楽しさを感じながら集中して学んでいた。

展開がダイナミックで、子どもと一緒にわくわくどきどきした。

具体物を使ったり、体を動かしたりしながら学ぶことが、1年生にぴったりだと思う。園で気になっていた子どもの成長に驚いた。学級の中に、きちんと居場所ができているようだ。

幼児期にやってきたことをうまく引き継いでいる。子どもたちに教え込むのではなく、自分から学んでいけるように工夫していた。

園でも協同的な遊びを積極的に取り入れて、小学校でのスタートカリキュラムにつなげていきたい。

授業で使ったカード
表に動物・裏に数字



保・幼・小・中連携スケジュール

- | | |
|-----|---------------------------------------|
| 4月 | ・公開授業 |
| 5月 | ・小学校参観日
・園長・校長会
・スタートカリキュラム公開授業 |
| 6月 | ・実行委員会
・公開保育
・スタートカリキュラム公開授業 |
| 7月 | ・保幼小合同研修会打ち合わせ
・園長・校長会 |
| 8月 | ・保幼小合同研修会
・園と小学校でグループ協議 |
| 9月 | ・運動会を通しての交流
・公開授業・公開保育 |
| 10月 | ・公開保育
・生活科の活動を通じた交流 |
| 11月 | ・園長・校長会
・公開授業(保育士が小1で授業を行う) |
| 12月 | ・公開授業 |
| 1月 | ・一日入学
・園児の小学校探検 |
| 2月 | ・公開授業
・園長・校長会 |
| 3月 | ・年間の取組の振り返り
・次年度への引継ぎ |

みんな
がんばっていたね。

園長先生、
見てくれた？



保・幼・小合同研修会
グループ協議【8月6日】



○ 保・幼・小連携の現状と課題

- ・連携することが目的化していないか。連携は目的ではない。連携を通して、保育所・幼稚園・小学校の取組の質を高めること、そして、幼児教育と学校教育の滑らかな接続を図ることが目的である。
- ・連携が形骸化していないか。毎年、同じ交流活動を行っているが、保・幼と小の双方のねらいに即した交流や連携になっているか、子どもたちの実態に即した内容になっているのかについて見直していくことが重要である。

○ 保・幼・小連携と学び

- ・幼児期の遊びの中に、どのような学びの芽生えがあるのかを小学校に伝えていくことが求められる。遊びの中に存在する学びを知ることで、小学校の指導が変わってくる。



園児と児童の交流を柱とした 保・幼・小連携

人をつなぐ

園児と児童の交流:いっしょにあそぼう

園児にとっても、児童にとっても、実りのある 互惠性のある交流を！

江ノ口小学校区では、保育所・幼稚園から小学校への滑らかな接続を図り、園児や保護者が安心して小学校生活を迎えることができるようにするために、「園児と児童の交流」、「教職員の交流」、「年長児の保護者を小学校につなぐ取組」を進めています。

なかでも、「園児と児童の交流」は、①運動会などの「学校行事を通じた交流」と合わせて、②園児が小学校生活を体験するための「お弁当・給食交流」・

「小学校で遊ぼう」、③園児と児童のコミュニケーション能力を高めることを意識して行っている「生活科の活動を通じた交流」・「読み聞かせ交流」・「園児参加型の一日入学」と、3つの内容からのアプローチを行っています。

園と小学校の双方がねらいをもって段階的に深めていく交流となっていることから、園児にとっては「小学校生活に興味をもち、体験し、小学生にあこがれを感じながら自分なりの目標をもつ活動」になり、児童にとっては「成長した自分に気付き、思いやりをもって分かりやすく伝えることの重要性を学ぶ場」となり、双方にとって実りのある、互惠性のある交流となっています。

江ノ口小学校区 園児と児童の交流のポイント



- 1 園児と児童の交流をイベント的な単発の交流ではなく、双方のねらいに即して進めていること。
- 2 小学校教頭が園に出向いて出前授業(おもしろ科学遊び)をしたり、小学校長が年長児保護者に講話をしたりするなど、様々な「つなぐ取組」とともに実践していること。

※互恵性のある交流とは…お互いに育ち合うような交流の積み重ねにより、交流がイベント的なものではなく、保・幼と小の子ども達の発達にとって必要な学習の場であるとともに互いの学び合いの場となっている交流のことです。



園児と児童の交流:絵本を使って



実行委員会:保・幼・小合同研修会の打ち合わせ

園児と児童の交流 成功の鍵

事前打ち合わせ

江ノ口小学校区では、園長・校長会や実行委員会などを通して日頃から、園児と児童の効果的な交流について協議しています。

特に、実行委員会には、管理職とともに、園の年長担当や小学校の1年生担任も参加しています。そこでは、交流活動を重ねるにつれて子どもたち相互のつながりが深まるように、事前の打ち合わせに力を入れています。

双方がねらいを

江ノ口小学校区の交流活動は、「年上の子が年下の子に教えるだけの交流活動」ではありません。園も小学校も、年間の行事計画や保育計画・教育計画に位置付け、双方がねらいをもって実践しています。

せっかくまとまった時間をとって実施するものですから、双方に効果がみられる価値ある取組にするために、実施後も振り返りを行い、次年度につなげています。

グループやペアで

園児と児童が、集団と集団として交流すると、あまり深まりがみられません。そこで、江ノ口小学校区では、園児と児童（主に小1）がグループを作って、あるいは、ペアになって活動するようにしています。

児童の作文にも「わたしのペアはMちゃんでした。本をよむれんしゅうはたいへんだったけど、しずかにきいてくれてうれしかったです。なわとびもMちゃんはがんばっていました。」と、交流が深まっている様子が現れています。

園児と児童
の交流の
成果は
これだ!!

江ノ口小学校区では、昨年度から園児と児童の交流に力を入れて取り組んできました。

入学前に小学校の施設や環境、そして、1年生の子どもたちとふれ合い、小学校生活を体験してみることで、入学前の不安が、あこがれや願いに変わり、安心して入学を迎えることができるようになったと思います。1年生にとっても年長児とのかかわりが成長の場となっています。

園児と児童の交流【第1回目…11月、第2回目…1月、第3回目…2月 一日入学】

園から

小学校へ遊びに行こうⅠ・Ⅱ

小学校へ遊びに行こうⅠ(10:00~11:00)

【園児のねらい】

小学校の様子を見て、小学校生活に興味をもつ。

【内容】

- ・校庭の広さや遊具の大きさに気付く。
- ・小学生や先生など、人との出会いを楽しむ。

1 小学校の校庭を散歩する。固定遊具で遊ぶ。

- ・新しい出会いを楽しむ。
- ・校庭の広さを感じる。
- ・園とは違った環境があることに気付く。

2 小学生の遊び方を知る。小学生と触れ合う。

- ・小学生が勢いよく校庭で遊ぶ姿にあこがれの気持ちをもつ。
- ・小学生から遊具の遊び方を教えてもらう。

3 学校探検(屋外)

- ・屋外を散策しながら、興味をもったものについて教頭先生に聞いてみる。
- ・給食室からのにおい、音楽室からの音などを楽しむ。

4 小学校のトイレを使う。

- ・小学校でも自分で排泄できることに気付く。

5 校長先生に挨拶する。

- ・次回の学校探検に期待をもつ。

【小1のねらい】

- ・園児がやってみたい遊びを聞いて一緒に遊ぶ。
- ・給食当番の仕事や配膳の仕方を園児に紹介する。

【小1のねらい】

- ・園児に遊具の遊び方を分かりやすく伝える。
- ・困っている園児がいたら声をかける。



小学校へ遊びに行こうⅡ(10:00~13:00)

【園児のねらい】

小学生気分を味わいながら小学校生活に期待をもつ。

【内容】

- ・チャイムなどに気付き、小学校生活の流れを知る。
- ・校内の様々な場所を探検し、楽しさを見つけていく。

1 学校内(屋内)を探検する。

- ・小学生が教室で勉強をしている様子を見る。
- ・理科室、体育館、保健室、校長室など、いろいろな部屋があることに気付く。
- ・休み時間には小学生が楽しんでいる遊びから刺激を受けて、一緒に遊べることを見つける。

2 自分たちで散策する。小学生の気分を体験する。

- ・自分たちで学校内に楽しさを見つかる。
- ・自分たちでできる遊びを工夫してみる。
- ・チャイムを合図に行動してみる。

3 給食の様子を見る。小学生と一緒にお弁当を食べる。

- ・給食当番の様子を見てあこがれをもつ。
- ・ランチルームの雰囲気を楽しむ。
- ・小学校での食事を楽しむ。

4 校長先生に挨拶する。

- ・次回の一日入学に期待をもつ。

交流で実感する互恵性



児童

自分の成長

思いやり

伝える

目標

願い

あこがれ

園児

江ノ口小学校区では、一日入学も園児が授業に参加する「参加型交流」として実施しています。その他、国語科を通じた交流「じゃんけんやさんをひらこう」では、1年生が考え出したじゃんけんを園児に紹介して一緒に遊んだり、上の写真のように、グループごとに絵本の読み聞かせをしたりするなどの交流を行っています。

園児は、大勢の前で発表したり、絵本を読んでくれたりする1年生にあこがれを感じ、「自分も小学生になったらあんなふうに本が読めるようになりたい」といった願いをもつようになります。願いは「小学生になったら本読みをがんばる」といった目標にも発展していきます。

一方、小1の児童は、日頃はお世話される存在になりがちなのですが、5歳児と交流することで、小学校での自分の成長に気付いたり、園児に読み聞かせをするために、何度も音読の練習をしたりするなど、園児との交流により学ぶ意欲や思いやりの心が育ってきました。

【8月22日】保・幼・小合同研修会：小学校1年団からの実践発表

保・幼・小の教職員が江ノ口地区の連携についてグループ協議



協議内容

- 保・幼から小への接続期には、「生活する力」・「かかわる力」・「学ぶ力」の3つの力が重要であり、中でも人とかかわることが、自己肯定感を高めることにつながるため、江ノ口小学校区では「かかわる力」を大切に育んでいく。
- 保・幼では保護者とのかかわりが深い。小学校でも保護者の不安や疑問を把握し、丁寧に対応していくなど、保護者の思いを受け止めることについても、保・幼・小で連携したい。⇒江ノ口小学校区オリジナルの年長児保護者対象リーフレットの作成・配布を決定

はじめに、たいいくかんで本のよみきかせをしました。ぼくはどきどきしてきんちょうしたけど、がんばってよみました。ねんちょうさんは、よんだあとしつもんしてくれたので、いっしょにはなしをしました。
江ノ口小1年Nくんの作文から

保・幼・小連携スケジュール

- 4月
 - ・公開授業(参観日)
- 5月
 - ・園長・校長会
- 6月
 - ・実行委員会
- 7月
 - ・保幼小合同研修会打ち合わせ
- 8月
 - ・保幼小合同研修会
 - ・小学校の実践発表
- 9月
 - ・実行委員会
 - ・小学校の運動会を通しての交流
- 10月
 - ・公開保育
- 11月
 - ・生活科の活動を通じた交流
- 12月
 - ・公開授業
- 1月
 - ・園児の小学校探検
 - ・園長・校長会
- 2月
 - ・一日入学・公開保育
 - ・実行委員会
- 3月
 - ・年間の取組の振り返り
 - ・次年度への引継ぎ

日常的なかかわりを大切にした園児と児童の交流

人をつなぐ

園児と小学生と一緒に田植え

園児のころから、小学校や小学生に 親しみを感じるような交流を！

五台山小学校区では、保育所から小学校への滑らかな接続を図ることを目的に、園児が小学校や小学生に親しみを感じることができるようになることを意識して、日常的な園児と児童の交流に取り組むことにしました。

園児が小学校の運動場を定期的に活用して運動できるようにしたり、小学校を避難場所として位置付け、津波の被害から命を守るために、園児と児童と一緒に避難訓練を行ったりしています。

また、地域の農家から田んぼを借りて、田植えや稲刈りを行うことで、日本の主食である米の大切さや、農家の方の仕事に触れる活動を、園児と児童が共に体験しています。

他にも、小学校の生活科の学習において、おもちゃ作りを行い、園児を小学校に招待しておもちゃで一緒に遊んだり、ゲームコーナーを作って交流をしたりすることで、小学校の入学が楽しみなものとなるような取組を行っています。こうした日常的な取組を土台として、今後、さらに計画的な密度の濃い交流を目指していきます。

五台山小学校区 園児と児童の交流のポイント



- 1 年間を通して、園児が小学校の運動場を活用し、運動や遊びを行っていること。
- 2 震災時の避難場所として小学校を位置付け、園児と児童が合同で避難訓練を行っていること。
- 3 小学校の生活科の学習に交流を位置付け、小学校への招待などを行っていること。



生活科の活動を通しての交流



1・2年生も園児も楽しみにしている交流

園児と児童の交流 こんなことから

日常的なかかわり

五台山小学校区では、地域の行事や直接の会合を通して日頃から、園児と児童の効果的な交流について協議しています。

本年度は、これまでの交流にプラスして、保・小の教職員連携の一環として、合同研修会も実施でき、さらに連携が広がってきました。

地域とのつながり

五台山の地域性を生かした「田植え」・「稲刈り」や、南海地震を想定した避難訓練などを一緒に行うことで、保育所と小学校が、互いの教育活動をからめて、少しずつかわる場を設定するようにしています。

「地域の子どもを地域で育てる」意識をもって支援してくださる方のおかげで、園児も児童も共に育っています。

生活科の活動から

五台山小学校では、生活科の学習の際に園児との交流を視野に入れ、園児を招待しておもちゃ大会をしたり、入学前の園児の学校探検や交流を行ったりしています。

小学生にとっても、対象が園児に広がることで、思いやりをもって行動することや、園児に分かりやすい表現の仕方を学ぶ機会となっています。

**園児と児童
の交流の
成果は
これだ!!**

何より、学校を身近に感じてもらうことで、入学の際に感じる段差が小さくなってきていると思います。

これまでも園と学校が隣接しているという好条件を生かし、小学校の運動場や施設を活用して交流していたのですが、本年度は、1・2年生の子どもたちとの触れ合いも意識して行うことで、交流によるつながりがさらに深まったものと考えます。

園児と児童の交流【生活科…12月】

1年「秋のおもちゃだいしゅうごう」

2年「楽しい遊びを考えよう」



園児「しょうがくせいとあそぼう」

(9:30~10:30)

【園児のねらい】

児童との活動を通して、小学校の生活に興味をもつ。

【内容】

児童が準備したおもちゃやコーナーを巡り、楽しく遊びながら交流をする。

1 自己紹介をする。

- ・お互いを知る。
- ・これからの活動を知る。

2 小学生からおもちゃやゲームについての説明を聞く。

- ・小学生からおもちゃの遊び方を教えてもらう。

3 小学生が準備したおもちゃやゲームコーナーで一緒に遊ぶ。

- ・小学生が作ったおもちゃを使って遊ぶことで、自分も小学生になったら、こんなものを作りたいとあこがれの気持ちをもつ。
- ・一緒に遊びながら、交流を楽しむ。

4 感想を発表する。

- ・一緒に遊んだ感想を述べる。

【小学生のねらい】

- ・園児に楽しんでもらえるおもちゃをつくる。
- ・園児に分かりやすく説明する。

作る時は、ストロ
ーの切り方に気
を付けてね。

そうっと傾けると、
うまくころがるよ。

箱の横をトントン
たたいて、倒れ
ずに残った方が
勝ちだよ。



はえとりカエル(2年生)



どんぐり迷路(2年生)



松葉ずもう(1年生)

小学校のお兄
さんやお姉さんと
遊んで楽しかった
です

どんぐり迷路や
どんぐりのけん
玉を作りたいで
す。

どんぐりがトンネ
ルに入っていっ
たよ。

大丈夫。ななめ
にすると出てくる
からね。



楽しかったことを発表



どんぐり迷路(1年生)



鉛筆でこまの真
ん中をおさえる
のがむずかしい
かな。

糸引きごま(2年生)

交流で実感する地域のよさ・地域とのつながり



五台山小学校では、食育、社会科等の一環として、地域の農家の方、JA五台山支所などの協力を得て、稲作体験学習を行いました。

写真は、保育所の園児と共に、田植えを行っているところです。秋になると稲刈りを行います。稲刈りが終わると、コスモスの種をまき、秋にはコスモスが綺麗に花を咲かせます。このように、園児と児童が共に地域の人とかかわり、地域のよさを感じる活動を行うことで、園児も小学生も「五台山の仲間」という意識を育てていくようにしています。

【11月26日】保・小合同研修会

鳴門教育大学の木下光二教授から連携を推進するための土台や相互理解についてご講演いただきました。保育所からも参加しやすい時間になるように、17:30～19:30という時間帯で研修会を行いました。



○ 研修の中では、鳴門教育大学附属幼稚園・小学校の園児と児童の交流活動「いかだプロジェクト」の実践を題材にして、園と小学校の教職員が協議をしました。
【園から】小学生と園児が、いつも「教える—教えられる」関係になるのではなく、仲間として助け合い、学び合う交流になると互いに育ち合えるのだと思った。日頃からペアをつくって交流しているからだろう。

【小学校から】幼児教育でこんなに豊かな学びの芽生えがあることを小学校では忘れがちになる。園での学びや育ちに関心をもち、小学校の授業に生かしていくようにしたい。

⇒五台山小学校区として、交流や連携のカリキュラムを作り、取り組んでいくことを提案しました。

保・幼・小連携 スケジュール



4月

・公開授業(参観日)

5月

・小学校の運動会を通しての交流

6月

・連携についての打ち合わせ

7月

・保幼小合同研修会の打ち合わせ

8月

・交流についての打ち合わせ

9月

・合同避難訓練

10月

・保幼小合同研修会の打ち合わせ

11月

・保育園の運動会を通じた交流
・保幼小合同研修会

12月

・一日入学打ち合わせ
・生活科を通じた交流

1月

・一日入学(園児の小学校探検)

2月

・参観日公開授業

3月

・年間の取組の振り返り
・次年度への引継ぎ

園の特性を生かした取組をもとに接続を図る

教育をつなぐ



木の幹をスケッチする園児



体験と表現の連続性を意識した「カリキュラム」と 年間計画に位置付けた「交流」

朝倉第二小学校とともに推進指定を受けている二つの園では、それぞれの園の特徴を生かして、小学校との連携・接続に取り組んでいます。

体験と表現の連続性を意識した「カリキュラム」による接続を図っているのは若草幼稚園です。子どもたちが体験から得た感動を自分の学びとして表現する過程を大切にしています。

小学校との「交流」を年間計画に位置付けて実施しているのは若葉保育園です。小学校の校庭に隣接する園であり、その好条件を生かして、互いの行事や公開授業・公開保育への参加、園児と児童の交流を年間を通して行っています。

この校区では、園長・校長会を核として、年間の取組を協議し、園と小学校、園と園が情報共有しながら連携を進めています。本年度は、若草幼稚園において保・幼・小連携研修会を行い、「幼児教育における遊びのとりえ方」、「遊びから生まれる学び」等について共通理解を図ることができました。

朝倉第二小学校区 取組のポイント

- 1 園のこれまでの取組や地理的条件等を加味し、園の特性を生かした方法で連携を行っていること。
- 2 連携や接続の取組をイベント的にではなく、年間計画に位置付けて継続的に実施していること。今後は振り返りをしながらさらにねらいに迫っていくようにしていること。

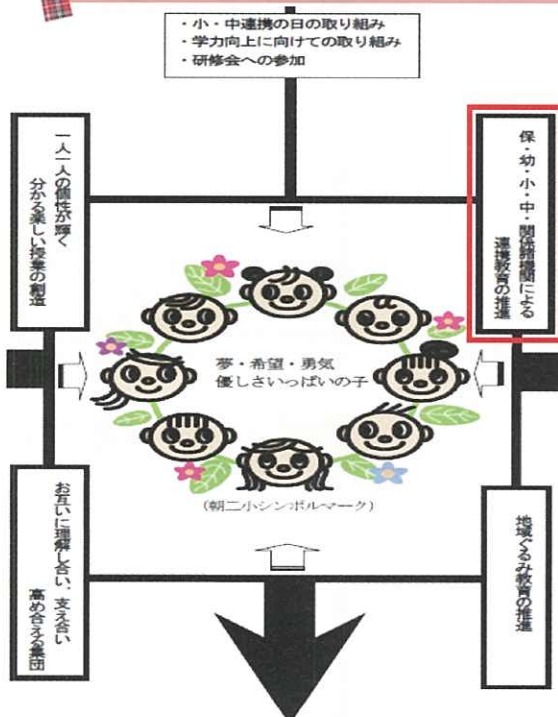


保・幼・小合同研修において
園での取組を学ぶ



手作りおもちゃで交流する2年生と園児

学力向上構造図(朝倉第二小)に保・幼・小・中連携教育を位置付け



朝倉第二小学校では、「人との関わりのなかで、成長を実感できる学校」を目標に、学力向上構造図を作成しています。

その構造図の中に、「保・幼・小・中関係諸機関による連携教育の推進」を位置付け、人権総合学習の取組の一貫として、園児と小学生との交流を実施しています。

朝倉中学校区においては、「朝倉地区教育振興基本計画作成委員会」による「あさくら教育ビジョン」を作成し、連携をスタートしました。本年度は、朝倉第二小学校区が「高知市保・幼・小連携推進地区事業」の指定を受けたこともあって、さらに校種間の連携を推進していこうとしています。

保・幼・小・中の連携は、学力向上、不登校対応、人権教育の充実など、本校が取り組む全ての内容の土台となる部分であり、全教職員で意識して取り組むために、学力向上構造図に位置付けています。

**保・幼・小
連携の
成果は
これだ!!**

保育所・幼稚園と小学校が、子どもの学びと育ちについて、本音で語り合える関係づくりをめざしています。まだ、そこまでは到達していませんが、園長・校長会を中心に、まずは管理職から共通理解を図り、それを連携担当や教職員全体に広げようとしています。本年度は、連携研修会を開催することもでき、互いの取組に対する理解も少しずつ進んできています。

若草幼稚園年長児【10月中旬～】

「木」に出会う

【ねらい】

木の命を感じ、木に親しみをもつ



活動	内容	子どもたちの様子
①木とお話しよう	木に寄り添って木と話してみる。 子どもたちからは、 「おはようって言ってくれた」 「心があったかくなった」 といった声がきかれた。	
②木のフィールドビンゴ	グループに分かれて、「くねくね曲がっている木」、「赤ちゃんの木」などを探す。全員が、「これがそうだね」と納得した木に出会ったらスケッチする。	
③はっぱを描こう	森で見つけてきたはっぱを置いて、大きさ・形・色を見ながらはっぱを描く。	
④グループの木	グループごとに木の絵を描く。 話し合ってから描き始めるグループ、いきなり描くグループと、いろいろな状況が見られた。 心と体でさまざまな出来事に出会うと、子どもの学びが豊かになる。	

【9月10日】朝倉第二小学校区 保・幼・小連携研修会

保育者の援助

- ・共にいて、支える
- ・環境を整える→紙の大きさ、色
- ・個に応じたかわり（見守る、励ます、タイミングをつかむ、間をとる、など）



内容

- 「幼児教育の特質について」と題して、若草幼稚園長から園の保育についての紹介をしてもらいました。その中には、上記の「木に出会う」実践があり、小学校からの参加者は、子どもの学びを豊かにするために園で行っている活動、保育者のねらい、環境の構成、保育者の援助などについて学ぶことができました。いずれも小学校の授業づくりに通じることです。

【10月16日・18日・21日】2年生と若葉保育園年長児の交流



○ 朝倉第二小学校の2年生5クラスの児童は、若葉保育園の年長児と、年間2回(6月と10月)交流活動を行いました。

【6月】「だるまさんがころんだ」・「ころがしドッジボール」・「フルーツバスケット」など、体を動かして行う遊びを中心に園児と児童が交流しました。

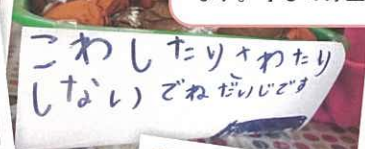
【10月】2回目の交流では、2年生が手作りおもちゃ「皿回し」・「パンチボール」・「輪投げ」・「ストローサッカー」などを作って園児に遊び方を伝えて一緒に遊ぶ活動を行いました。

2年生にとっては、自分より年下の子どもたちとの接し方や、言葉による伝え方を学ぶよい機会となりました。今後は、園児にとっても豊かな学びの場となるよう、事前に打ち合わせをしてねらいを設定していきます。

【11月20日】若葉保育園 5歳児公開保育



園児も、遊びの中でみんなに伝えたいことを文字にして伝えようとしています。「学びの芽生え」です。



「看板はこっちから書いた方が読みやすいよ」と、話し合っています。



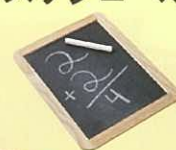
先生に手伝ってもらって大きな段ボールも切ります。



○ 本日の活動は、「友達と一緒に考えたり工夫したりして遊びを作りあげていく楽しさを感じる」ことをねらいとして行いました。

園児は、お店ごっこのために、お菓子を作ったり、飾りや看板を作ったりする中で、友達とかかわり、時には意見が対立する場面も経験しながら、話し合っ解決することを学んでいました。園児の「こわしたりさわたりしないぞね。だいじです。」という注意書きには、友達と一緒に作ったものに対する愛着を感じます。伝えたい思いがあつてこそ、文字を使う意味が生まれています。こうした「伝えたい気持ち」を小学校の学習につないでいきたいものです。

保・幼・小連携 スケジュール



4月

・公開授業(参観日)

5月

・園長・校長会

6月

・園児と児童の交流
・公開授業(参観日)

7月

・公開保育

8月

・保・幼・小連携研修会
打ち合わせ

9月

・保・幼・小連携研修会

10月

・園児と児童の交流

11月

・公開保育
・若草幼稚園作品展

12月

・公開授業

1月

・園児の小学校探検
・園長・校長会

2月

・一日入学・公開保育

3月

・年間の取組の振り返り
・次年度への引継ぎ

学びをつなぐアプローチカリキュラムの取組



教育をつなぐ

公開保育：劇ごっこの様子



園で展開される、豊かな学びと育ちを 小学校につなげる

かがみ幼稚園では、「学びの芽生え」・「人とのかかわり」・「生活習慣・運動」など、小学校への接続期において育てたい子どもの姿を意識しながら、アプローチカリキュラムに取り組んでいます。

その中で子どもたちは、友達と一緒に工夫しながら目的をもって遊びを進められるようになり、生活の見通しをもち、自分たちで生活を進めていこうとしたり、自然との触れ合いを通して生命の大切さや自然の不思議さに気付いたりするといった「学び」を経験しています。

そうした「学び」を大切に育てていくように、鏡小学校では、園で展開されている活動を知り、小学校の取組の中でさらに豊かにふくらませていくように努めていますし、園からも子どもたちの学びと育ちの姿を積極的に発信していくようにしています。その土台には、「子どもがどのように育ってきたのか」、「これからどのように育っていくのか」について教職員が理解し合っていることがあります。



鏡小学校区 アプローチカリキュラムのポイント

- 1 幼児期の教育とそれ以降の教育との関係を十分に理解したうえで、アプローチカリキュラムに取り組んでいること。
- 2 カリキュラムで教育課程をつなぐことと併せて、教職員の連携や子どもたちの交流を行っていること。



※アプローチカリキュラムとは…保育所・幼稚園等において行われる、幼児の学びを小学校生活に適切につないでいくための、年長期(11月頃～3月)に実施するカリキュラムのことです。



折り紙で魚をつくる園児



鏡小でも使っているパターnbloCkで遊ぶ園児

地域の支えとしては、他にも、5年生の田植えにご協力いただいています。子どもたちは、幼稚園の時に、田んぼでの泥遊びを経験させてもらっているの、田植えにも積極的に取り組みます。

アプローチカリキュラム 成功の鍵

地域ぐるみの支え

園や学校での学びを豊かにするために、地域の協力は欠かせません。園児も小学生も、春にはタケノコ、夏には地域の梅林で梅をとらせてもらい、梅ジャム作りに挑戦したり、秋には栗拾いの体験をさせてもらったりと、地域全体で取組を支えていただいています。



幼・小・中で育てる

写真は、幼・小・中音楽会の様子です。鏡地区では、行事を合同で行うことも多く、幼稚園の運動会などにも、小学生の競技があったり、保育園の園児が参加する競技があったりするなど、日頃から子どもたちの育ちを知る機会を意図的につくっています。



研修で高める

他の地域がどのような取組をしているかを知ったり、園の取組を公開して意見をもらい、改善したりすることは、カリキュラムの質を高めるうえで欠かせないことです。

本年度は7月に幼・小合同研修、11月には研究会で公開保育を行い、取組の成果と課題を検証しました。



アプローチ
カリキュラムの
成果は
これだ!!

かがみ幼稚園では、これまでも小学校への接続を意識した実践は行ってきましたが、5歳児後半に「アプローチカリキュラム」として、「学びの芽生え」「人とかかわり」「生活習慣・運動」という3つの視点を意識して取り組んだことで、小学校とのつながりがさらに確かなものになりました。また、小学校の立場から幼児教育を見る時にも、活動の意図やねらいを考えるようになってきました。

アプローチカリキュラム【11月27日の日案と活動から抜粋】

お店屋さんやゲーム屋さんをしよう・考えたり工夫したりして作ろう

本日のねらい(◎)と内容(・)

◎友達と考えや思いを出し合ったり受け入れたりしながら、遊びを進めていこうとする。

- ・ゲーム屋さんやお店さんの遊びをする中で、お客さんとやり取りをしたり、遊びの仲間と相談したりして遊ぶ。
- ・年少・年中児のゲーム屋さんで、ゲームの遊び方を聞いたり、また、相手の気持ちを受け止めたりしながら遊ぶ。
- ・自然物などのいろいろな材料を使って、考えたり工夫したりしながら遊びに必要なものを作る。



輪投げ屋さんの入り口と輪投げの様子



劇を演じる年長児と大喜びで見ている年中児

【学びの芽生え】「いらっやいませ～」とお客さんと呼んできました。劇のお話も、簡単なストーリーを自分たちで考えながら演じていました。

どんぐりころがしゲーム屋さん

【学びの芽生え】どうしたらうまくころがるか、友達と考えたり試したり工夫したりしながら遊びを進めていました。

考えたり工夫したりして作ろう

予想される幼児の姿(○)援助(★)環境構成(■)

- 木の実や葉などの自然物や、ラメのり、紙粘土などを使って、飾りやネックレスなどのお店の景品や商品を作る。
- 自然物やいろいろな材料を使って、お店に必要なものを作ってたり、友達の作っているものに刺激を受けて同じようなものを作ったりする。
- ★ 子どもが作りたいものを実現できるように、何を作りたいか把握しながら、必要に応じてイメージに合うものを一緒に探したりする。
- ★ 子どもの発想や工夫しているところを認めながら、意欲的に遊べるように援助していく。
- 作りたい子どもが多くなってきた時は、子どもと考えるながら机を構えるなど遊びの場を再構成していく。
- 素材を選びながらイメージをふくらませていけるように松ぼっくり、ビーズ玉、スパンコール、紙粘土、カラーひもなどを補充しておく。

お店屋さんやゲーム屋さんをしよう

予想される幼児の姿(○)援助(★)環境構成(■)

- お店の準備をしたり、時間を相談して、年少・年中組に知らせたりしてお店さんの遊びを始める。お客さんに、入った得点を知らせたり、どの賞品をとったらいいか教えて渡す。時には自分もゲームを楽しんだり、年少・年中児のゲーム屋さんに行ったりして遊ぶ。
- お店屋さんでは、お客さんが来てくれるのがうれしくて、「100円です」「こちらどうぞ」などと言いながらやり取りを楽しむ。
- 劇ごっこ屋さんでは、友達と一緒に遊びに必要なものを作ったり、人形を使って友達と会話をしたりする。劇ごっこを見てもらいたくて、友達を呼びに行こうとする。
- ★ 遊びが途切れた時には、教師がお客さんになったり、遊びに誘ったりしてきっかけをつくっていく。また、子どものうれしい気持ちや楽しそうな様子に共感したり、子どものアイデアのよさを認めたりしながら遊びを楽しんでいけるように援助する。
- ★ 劇ごっこ屋さんでは、見てもらいたい思いが実現できるように、子どもたちの様子を見守りながら、必要に応じて教師が遊びの仲間になって、劇ごっこの楽しさを味わっていけるように援助していく。
- 周りのお店の様子にも気付け、自分たちだけでなくみんなが楽しめるように、必要に応じて場の再構成をしていく。



改造中です。



的当てゲーム屋さん

【学びの芽生え】オナモミがフェルトにくっつく点が入ります。狭くて難しいところの得点が高く、広いところの得点が低くなっています。子どもなりにその違いを考えて作っていました。



【学びの芽生え】自分も作ることを楽しみながら、お客さんが喜んでくれるように、自然物やビーズなどを組み合わせて飾りを作っています。

学びの芽生え(幼児)⇒主体的な学び(児童)へ



いろいろな形づくりに挑戦



鏡小学校低学年の子どもたち



鏡小学校では、「対象との直接的・具体的ななかかわりを通して学ぶ」という小学校低学年の発達の特徴を踏まえ、幼児期からの学びと育ちの連続性・一貫性を図ることを意識しています。

例えば、低学年の算数の学習においては、写真にあるようにパターンブロックを取り入れたり、形を切り抜いて確かめ合ったりするといった、活動を通して学ぶ機会を意図的に設定しています。

こうした手立てを行うことで、「学びの芽生え」の時期(幼)から、「自覚的な学び」の時期(小)への滑らかな移行を図っています。

【1月】園児の絵本作り⇒小学校1・2年生の絵本作りへつなぐ



自分で考えたお話を、
みんなに伝えています。



小学校でも、地域の方に、絵本作り
を教えてもらって、オリジナル絵本を
作ります。

園児が絵本の表紙を
描いています。

- かがみ幼稚園では、毎年、地域の方のご協力を得て、年長児が絵本作りに挑戦しています。年長後期から1年生にかけての時期は、少しずつ言葉や数に対する興味が高まってくる時期です。「お話作りたい! 書きたい!」という意欲が出てきたときをとらえて、保育者と一緒にお話を作ったり、絵を描いたりするようにしています。出来上がった絵本は、子どもたち一人一人の成長の記録として地域の方や小学校の教職員にも見てもらいます。
- 鏡小に入学してから、絵本作りを1・2年生の年間計画に位置付けて実施しています。園での経験があるため、想像力や表現力に豊かさと広がりを感じる絵本になっています。「学びをつなぐ」とは、まさにこうした取組のことを指すのだととらえています。

保・幼・小連携 スケジュール



4月

- ・スタートカリキュラム実施
- ・給食交流
- ・学校便り・園便りで情報共有 長頭会

5月

- ・幼小連絡会(授業参観と協議)
- ・パターンブロックを園へ
- ・学校便り・園便りで情報共有 長頭会

6月

- ・公開保育 長頭会
- ・管理職の協議
- ・学校便り・園便りで情報共有

7月

- ・公開授業 長頭会
- ・保幼小合同研修会
- ・学校便り・園便りで情報共有

8月

- ・幼小中合同環境整備

9月

- ・長頭会
- ・学校便り・園便りで情報共有

10月

- ・幼稚園運動会(5年生参加)
- ・幼小中合同音楽会・給食交流
- ・学校便り・園便りで情報共有 長頭会

11月

- ・公開保育
- ・アプローチカリキュラムについて
- ・学校便り・園便りで情報共有 長頭会

12月

- ・公開授業 長頭会
- ・学校便り・園便りで情報共有

1月

- ・園児の絵本作り 長頭会
- ・学校便り・園便りで情報共有

2月

- ・絵本鑑賞会・一日入学
- ・学校便り・園便りで情報共有 長頭会

3月

- ・ロング集会以年長児を招待
- ・年間の取組の振り返り
- ・次年度への引継ぎ 長頭会

※長頭会とは、かがみ幼稚園長、鏡小学校長、同教頭、鏡中学校長、同教頭が集まって、連携や交流などについて協議する会です。

地域ぐるみで教職員連携

組織をつなぐ



保・幼・小・合同研修会：小学校は全学年が参加



春野の子どもを みんなで育てる意識で！

春野地区では、春野東小とともに春野西小、春野中、そして地域の保育所や幼稚園等が集まって、共に春野地区の子どもの健やかな成長のために、園長・校長会、保・幼・小連絡会、公開保育、公開授業などを学校や園の年間計画に位置付けて実施しています。

この取組は、メンバーが替わっても継続しており、春野地区の園や小・中学校であれば、保・幼・小・中連携に、年間を通じて取り組むことが定着しています。

そうした取組を土台としながら、本年度は、保・幼・小連携推進地区事業の指定を受けたことを契機に、実践のさらなる充実と、管理職の連携から学校全体・園全体の連携へと広げていくことを意識して取り組みました。これまで実施してきたことだから続けるのではなく、「この話し合いが、子どもたちの学びと育ちをつないでいくために、そして、子どもや保護者の不安や困り感を解消するものになっているのか」を考えて一つ一つの取組を吟味していくことができました。



春野東小学校区 教職員の連携のポイント

- 1 教職員連携が、各校種の管理職間で行われるだけでなく、そこで協議したことを保・幼・小連絡会や公開保育・公開授業につなげていき、教職員全体に広げていること。
- 2 子どもたちの学びと育ちのために教職員連携が不可欠との意識が共有されていること。





校区の園の園長・保育士・
教諭が小1の体育を参観



意見交流で互いの取組を知る

教職員の連携 こんなことから

中学校へつなぐ

子どもの学びと育ちをつなぐことは、単に、保・幼と小の接続だけではなく、中学校へどうつなぐかも併せて考えていく必要があります。それが春野地区で行われている、保・幼・小・中の連携です。そのため、園での公開保育にも、小学校での公開授業にも、中学校から参加してもらうようにしています。園から中学校を訪問することもあります。

日常的に情報共有

公開授業・公開保育の他にも、園長・校長会という管理職が協議する場、また、保・幼・小連絡会という小1担任と年長担任まで巻き込んで協議する場を設定しています。

さらに、本年度は夏季休業中に合同研修会を位置付けたことで、保・幼と小の教職員全体で協議する場や情報共有の機会が生まれました。

共通の教具を

本年度は、保・幼と小の学びをつなぐ取組についても検討しました。その一つが、共通の教具を導入することです。園の活動においても、時間を考えて行動できるようにタイムタイマーを使うようにしました。パターブロックの活用も、園と小学校で行い、子どもたちの学びを広げながらつないでいくよう配慮しています。

教職員
連携の
成果は
これだ!!

これまで継続的に行ってきた保・幼・小連携の取組を、一つ一つ吟味することで、目的が明らかになり、取組が確かなものになりました。子どもたちの学びと育ちをつなぐために、一日入学一つを挙げても、イベント的に行うのではなく園児にとっての貴重な体験となるように、入学への意欲が高まるように、事前の打ち合わせから丁寧に行うことで、教職員の相互理解も深まりました。

【11月18日】

第2回 保・幼・小連絡協議会

連絡協議会で決定した 一日入学のプログラム

【ねらい】

- ・幼稚園児・保育園児が入学する前に、小学校生活を体験し、安心して入学を迎えるようにするためにどのような工夫があるかを話し合う。
- ・1年生と幼稚園児・保育園児が楽しく交流できるようにするための準備や環境設定を検討する。

1 全体会

- 進行・日程説明
- 校長あいさつ

2 1年の授業参観・授業体験・校内めぐり

- 4班に分かれて授業体験
- 南舎・給食室・職員室・校長室・コンピュータ室・保健室・各教室→体育館

3 音楽鑑賞

- 5年生の演奏を聴く
- 休み時間

4 交流会(体育館)

- (1)1年生あいさつ
- (2)園児のあいさつ・歌
- (3)1年生の歌「だれにだっておたんじょうび」
- (4)ゲーム「じゃんけんれっしゃ」
- (5)1年生から園児にプレゼント
お礼のあいさつ

保・幼と小が互いの取組をつないでいくことで子どもたちの安心が生まれます。



年長児が小学校の授業を体験できるように、また小学生とのかかわりが生まれるように、「百玉そろばん」を使いましょう。

小学生になっても自信をもって行動できるように、一人一人のよさを認め、伸ばす指導を続けています。



体育の授業では、一人一人の動きがよく見えました。学級の中に居場所ができ、仲間と一緒に育っている卒園生を見てうれしくなりました。

情報交換

【ねらい】

- ・園は、卒園した子どもたちの様子を聞くことで、今後の園の取組に生かす。
- ・小学校は、来年度入学する年長児の様子を聞くことで、学校生活を安心して迎えることができるようにするための準備をする。

1 1年生担任から

- 子どもたちの成長について
- 1年団が意識して取り組んでいること
- 園での取組に対する質問

2 園の年長児担任から

- 年長児の学びと育ちについて
- 就学時健康診断を終えて入学を楽しみにしている子どもたちの様子
- 子どもや保護者が感じている不安を解消するために園と学校で取り組んでいきたいこと

3 本日の公開授業について

- 授業のねらい
- 基本的生活習慣の確立について

・春野平和保育園・へいわ幼稚園・うららか保育園・春野東小学校

保・幼・小・中 園長・校長会【5月16日】



春野地区の全ての園と小・中学校の管理職が集まって研修を行いました。高知市全体の小1プロブレムの状況や連携の実態をもとに協議することで、春野地区の取組を見直し、本年度、特に力を入れていきたい内容(春野西小校区:スタートカリキュラム, 春野東小校区:教職員の連携)について確認しました。

保・幼・小合同研修会【8月22日】



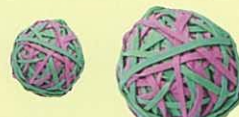
東京成徳短期大学の和田信行教授をお招きし、保・幼・小の教職員が一堂に会して小1プロブレムの状況や、連携の必要性について学びました。そして、今の子どもたちの状況を分析しつつ、園でできること、小学校で伸ばしていきたい力について協議しました。小学校の全学年の教職員が参加することで、低学年からの学びのつながりも意識することができました。

公開授業【11月18日】



年間を通して、公開保育や公開授業を行っています。この日は小1の公開授業(体育)に、園から園長はじめ、年長児担任などが参加して、子どもたちの育ちの様子を参観し、互いの取組についての情報交換を行いました。

保・幼・小連携 スケジュール



4月

・公開授業(参観日)

5月

・保・幼・小・中 園長・校長会
・小学校運動会を通しての交流

6月

・保・幼・小連絡会①
・公開授業・春野支部人研

7月

・保幼小合同研修会
打ち合わせ

8月

・保幼小合同研修会
・公開保育

9月

・公開授業
・防災参観日

10月

・公開授業(参観日)

11月

・保・幼・小連絡会②
・公開授業(人権参観日)

12月

・公開保育

1月

・春野支部人研
・一日入学

2月

・保・幼・小連絡会③
・公開授業

3月

・年間の取組の振り返り
・次年度への引き継ぎ

教職員の相互理解を土台とした接続の取組

組織をつなぐ



小学校初任者の一日保育士体験



互いの取組を知ることで 幼児教育・小学校教育が充実する

大津地区では、学力向上のための小・中連携にはこれまでも取り組んできました。本年度は、その土台となる幼児教育と小学校教育の接続に取り組み始めました。

地域ぐるみで子どもを育てる意識はとても高い地域ですので、その強みを生かし、幼児期からの学びと育ちを大切に育み、小学校につないでいくための教職員の相互理解と連携を進めていきたいと考えます。

小学校1年生のスタートが安心して迎えられるようにするためには、保育所と小学校の教職員がそれぞれの役割を果たしつつ、互いの取組を相互理解することが欠かせません。そのことを本年度の主たるテーマとして、併せて、小学校入学期の生活を充実させるための取組を展開しました。スタートカリキュラムについても、次年度に向けて教育計画に位置付けていくようにしたいと思います。



大津小学校区 教職員連携のポイント

- 1 地域ぐるみで連携を進めるために、文化祭や防災の日などを活用していること。
- 2 一日保育士体験など、保育や教育の現場に出向いて、理解を深める取組を行っていること。



保育所の公開保育に小学校から参加



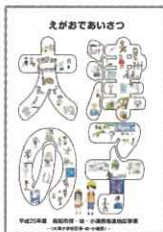
「こんにちは集会」で全校児童の歓迎を受けた1年生

教職員の連携 こんなことから

ファイルで意識化

保・幼・小連携推進地区事業の指定を受けて、保育所と小学校が連携し、保護者も地域も共に子どもたちを育てることを意識するように、「大津の子」というクリアファイルを作成・配付し、園児や児童が日々活用することにした。

合言葉は、「えがおであいさつ」です。



大津文化祭

大津文化祭は、今年で20回を迎える伝統のある取組です。11月2日・3日に、大津小学校体育館と運動場を会場に、地域の子どもたちが作品を展示したり、和太鼓や吹奏楽の演奏を行ったりしました。

園児にとっては小学生や中学生の演奏を聴いたり、交流したりするよい機会となります。

大津地域防災の日

12月1日には、防災の日の取組として、南海地震対策の活動を行いました。

そこには保育所や小学校からも参加し、共に活動することで、防災というテーマをもとに連携することができました。



園児の作品も毎年展示します。



教職員
連携の
成果は
これだ!!

本年度は、小学校教員の一日保育士体験の他に、園の公開保育に小学校から参加する機会も増えてきました。現場に赴いて、そこで展開される学びや育ちを実感することから理解が深まることが分かりました。

今後も、保育所と小学校の教職員の相互理解から、学びと育ちの接続をめざしていきたいと考えます。

初任者研修【8月9日】

小学校教諭の一日保育士体験

【ねらい】

保育園での子どもの様子や先生方の子どもたちへのかかわり方を実際に知ることで、これからの小学校での支援や指導に生かしていく。

1 朝の打ち合わせに参加する。

- ・ 今日1日の予定を確認する。
- ・ 子どもの発達段階に合わせて、年齢の低いクラスから参観させていただくことになる。

2 年少の子どもたち

- ・ 言葉では伝えられなくても、表情やしぐさで自分の意思を伝えようとする。つい引き寄せられて、話しかけたり、一緒に遊んだりした。

3 年中の子どもたち

- ・ プール遊びの用意が終わった子から、テレビに映されるダンスを先生と共に楽しそうに踊っていた。早く着替えを終わらせてダンスに加わろうと、急いで着替える子どもたちがいた。「早くしなさい!」と言わなくても、楽しく活動の準備ができる工夫がされているなど感じた。



4 年長の子もたち

- ・ 水遊びでは、顔をつけて楽しそうに泳いでいた。小学校に入ると、プールの深さに関係してか、恐怖心をもって泣く子もいる。この楽しさをそのまま小学校につないでいきたいと思った。

5 昼食

- ・ 小学校と共同で使うことにしたタイムタイマーを見て、時間を気にしながら食事をするのができていた。園児が時計を見ながら行動していることに驚いた。小学校でも学びを支える学習規律として、チャイム席や時計を見て行動することが求められるが、そうした習慣の基礎が培われている。

6 全体を通して

- ・ 「来年、行くきね!」「今日はいつまでおれるが?」等、年長児が積極的に話しかけてくれた。友達のことも生き生きと語り、仲間と共に様々な活動を体験することで、コミュニケーションの力が育ってきていると感じた。同時に、「自分や友達のことが大好きなこと」が、自信につながっているのだと感じた。



～保育士体験から学んだこと～

保育所では、遊びを通して学ぶ子どもたちの姿をみる事ができた。その学びを小学校につなげ、広め、深め、実りのあるものにしていきたい。そのためには、教える側が系統的な支援や指導をしていく必要があることを教えていただいた。

園と小学校で共通する教具を活用



タイムタイマーは大津小学校で使っている教具です。保育所の年長組でも年度初めから、給食の時などに活用してきました。年長児が入学や小学校の生活を意識するようになる11月に、再度、小学校長からタイムタイマーを届け、「小学校でも勉強の時に使っているものです。園での生活の中で使ってください。みんなが元気いっぱい小学校に入学してくれることを楽しみに待っています。」というメッセージを伝えました。

園児にとっては、園で使った教具が小学校でも使われているということで、入学してからの安心にもつながると思います。

【11月20日】保・幼・小・中・高合同研修会

子どもの豊かな成長に必要な教育機関の役割と連携



○ 大垣女子短期大学の西川正晃教授をお招きし、大津中学校区の保育所・幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教職員が一堂に会して研修を行いました。

保育所・幼稚園と小学校の連携を中心としながらも、地域全体の教育機関が、いかにそれぞれの役割を果たしつつ連携していくのかというテーマであったので、互恵的関係の構築の必要性や、遊びの中に存在する学びの可能性の大切さについて共通理解することができました。

保・幼・小連携 スケジュール



4月
・1年生の授業参観(保育所から)

5月
・園長・校長会
・小学校の運動会を通じた交流

6月
・実行委員会

7月
・保小合同研修会の打ち合わせ

8月
・保小合同研修会(11月に変更)

9月
・公開授業

10月
・参観日

11月
・公開保育
・保・幼・小・中・高合同研修会

12月
・公開授業

1月
・生活科の活動を通じた交流

2月
・一日入学
・実行委員会

3月
・年間の取組の振り返り
・次年度への引継ぎ

保・幼・小連携⇒あなたの学校の現在地は？

「 小学校 保・幼・小連携推進状況チェックシート
(チェックした日 ① 年 月 日・② 年 月 日・③ 年 月 日)

小学校学習指導要領・保育所保育指針・幼稚園教育要領において、保・幼・小の連携や交流など、学びと育ちをつなぐ取組の必要性が挙げられています。
各学校や各園で実施している保・幼・小連携をより効果的な取組にしていくなため、あなたの学校の現在の状況をチェックしてみてください。

方 策 1

人をつなぐ

園児と児童の交流

年長児保護者への働きかけ

Step0

Step1

Step2

Step3

Step4

連携のPDCA確立

- | | | | |
|---|---|---|---|
| <p>☐ 交流の予定・計画がまだない。</p> <p>☐ 働きかけの予定・計画がまだない。</p> | <p>☐ 一日入学や運動会等の学校行事を通して交流を行っている。</p> <p>☐ 就学時健康診断等の機会を活用し、保護者への働きかけを行っている。</p> | <p>☐ 園と学校で、事後の検討を行い、交流を充実させている。交流や連携の担当者を決めている。</p> <p>☐ 事前に園と情報交換し、保護者の疑問や不安を把握したうえで働きかけを行っている。</p> | <p>☐ 園と学校の双方にとって互恵性のある交流になるよう、改善しながら継続的に実施している。</p> <p>☐ 説明会等と併せ、リーフレットの作成・配付や小学校保護者との協議の場をつくるなど、多面的に働きかけている。</p> |
| <p>☐ 連携の予定・計画がまだない。</p> <p>☐ 支援の予定・計画がまだない。</p> | <p>☐ 学校だよりや園だより等を交換するなど、情報共有を行っている。</p> <p>☐ 保育所児童保育要録・幼稚園幼児指導要録等の資料とともに支援を行っている。</p> | <p>☐ 公開保育や公開授業、合同研修等では事前・事後の検証を行い、相互理解を深めている。</p> <p>☐ 入学前だけでなく、入学後の児童の様子についても情報共有し、支援を確かなものに行っている。</p> | <p>☐ 連携することで子どもの学びと育ちの接続が図られるよう、改善しながら継続的に実施している。</p> <p>☐ 就学児への支援が校区の課題に対応しているか、見直ししながら継続的に実施している。</p> |

※アブローチカリキュラムは、園で実施します。この部分は、連絡会などで園の取組について情報共有する際にご活用ください。

年長後期に実施するアブローチカリキュラム

方 策 3

教育をつなぐ

小学校入学当初のスタートカリキュラム

- | | | | |
|--|--|--|--|
| <p>☐ アブローチカリキュラムについて検討していない。</p> <p>☐ スタートカリキュラムについて検討していない。</p> | <p>☐ アブローチカリキュラムについて検討中である。</p> <p>☐ スタートカリキュラムについて検討中である。</p> | <p>☐ 入学前の時期に小学校への接続を意識した取組を行っている。</p> <p>☐ 生活科の教科書に即してスタートカリキュラムを実施している。</p> | <p>☐ アブローチカリキュラムに改善を加えながら継続して実施している。</p> <p>☐ スタートカリキュラムに改善を加えながら継続して実施している。</p> |
|--|--|--|--|